

第2回

市民会館の整備検討懇談会

令和元年8月23日

観光文化交流局文化歴史まちづくり部文化振興室

目次

1	市民会館の整備にかかる検討課題の整理	・・・	1
2	文化芸術を取り巻く環境の変化	・・・	3
3	ホールの類型	・・・	6
4	ホールを核としたまちづくりの事例	・・・	12
参考	海外のホール、民間のホール	・・・	18

1 市民会館の整備にかかる検討課題の整理

1 市民会館の整備にかかる検討課題の整理

第1回 配布資料（市民会館の機能更新のあり方）

課 題		大規模改修	移転・又は現地建替
設 備 面	バリアフリー	躯体構造上、館内へのエレベーター等の増設は困難	設計段階からバリアフリー化を徹底することで、高齢者や身障者らを中心に快適性が大幅に向上
	給排水管	給排水管は躯体に埋設しており、故障した際に原因究明や更新が困難	補修を想定したパイプスペースを確保することで緊急工事にも迅速に対応可能
	音響の課題	施設構造上、防振・防音機能の導入は困難	最新工法により音響環境が飛躍的に向上することで敬遠されていた一流演奏家の利用が期待できる
	トイレ数不足	躯体やスペースの問題で増設等が不可能	利用実態を踏まえたトイレ数や男女比が実現できるため来場者の鑑賞環境が向上
来場者動線	地下連絡通路や古沢公園駐車場から劇場への来場者動線のバリアフリー化は困難	駅や駐車場から劇場に向かう来場者動線の快適性が大幅に向上	
工事休館 (全館)	約3年～4年 (平成8年度の劣化状況調査による試算)	整備場所・手法により異なる	
費用面	<ul style="list-style-type: none"> 設備の機能向上が見込めないため、利用料金の値上げが困難 不安要素が解消できないため、維持管理経費の低減が期待できない 劇場としての基本機能が現在のニーズとかい離しているため、改修費に見合う評価が得られにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 機能が大幅に向上するため利用料金の値上げが可能 高額チケットの公演が増えるため利用料金収入の増収が期待できる 長寿命化を前提に整備するため維持管理経費の低減効果が期待できる 設計の自由度が高、民間活力の導入で整備費負担の軽減が期待できる 	

2 文化芸術を取り巻く環境の変化

2 文化芸術を取り巻く環境の変化

(1) 当懇談会における文化施設関連の用語の定義

ホール

- 1 ある建物の中で、多くの人が共同で使えるようになっている大広間
- 2 催し物や集会などを行うのに用いる公会堂、集合所、講堂
- 3 会議・講演会・演奏会などを行う広い場所、会館、公会堂、ダンスホールなど

劇場

演技する舞台と見物する観客席をもち、演劇・舞踊・オペラ・映画などを上演し、多数の観客が集まってこれを観賞するための場所。 建物、施設、シアター

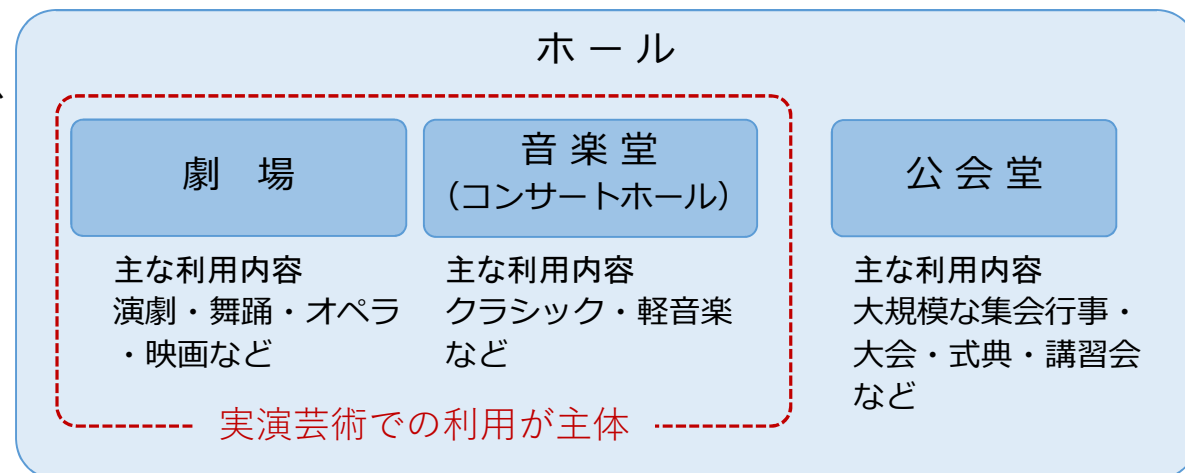
音楽堂

クラシック、音楽を演奏し、聴衆に聴かせるために造られた建物。 コンサートホールなど

公会堂

- 1 公衆の集会・会合などのために設けた公設の建物
- 2 公衆のための大規模な集会行事に適した会堂

(参考) 上記の各用語の関係



○当懇談会では、固有名詞で使用している場合を除き、劇場、音楽堂、公会堂を総称して「ホール」と表記します。

○座席規模については本市の人口規模を踏まえ、500席未満を「小規模ホール」、500席以上～1500席未満を「中規模ホール」、1500席以上を「大規模ホール」と表記します。

2 文化芸術を取り巻く環境の変化

(2) 文化芸術関連施策

- 2001年 **文化芸術振興基本法制定（2017年 文化芸術基本法へ改正）**
・文化芸術に関する基本理念を明らかにし、その方向を示した基本法
- 2012年 **劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（通称：劇場法）**
・文化芸術振興基本法で掲げた理念に基づき、劇場・音楽堂・文化ホール等の機能を活性化し、音楽・舞踊・演劇・伝統芸能・演芸の水準向上と振興を図るために制定された
- 2013年 **劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針**
・劇場、音楽堂等の事業を活性化するため劇場法の考えに基づき、劇場、音楽堂等の目指すべき方向性を明らかにしたもの
- 2015年 **文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次基本方針）**
・2015～2020年の6年を対象に我が国が目指す文化芸術立国の姿と、その実現の為の成果目標を定めたもの
・2020年東京五輪と、それに伴う訪日外国人受け入れ対応および東日本大震災からの復興について大きく取り上げられている
- 2017年 **文化芸術基本法（文化芸術振興基本法の改正）**
・文化芸術の振興に加え、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等文化芸術に関連する分野の施策についても本法律の範囲に取り込み、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の更なる継承、発展及び創造につなげていくことの重要性が明示された。
- 2018年 **障害者による文化芸術活動の推進に関する法律**
・文化芸術基本法および障害者基本法の基本的な理念にのっとり、障害者による文化芸術活動の推進に関し、基本理念・基本計画等を定めたもの
- 2018年 **国際文化交流の祭典の実施の推進に関する法律**
・国際文化交流の祭典の実施の推進に関し基本理念を定め、国等の責務を明らかにするとともに基本計画等を策定したもの

3 ホールの類型

3 ホールの類型

(1) ホールの変遷

① 公会堂、市民会館・文化会館

「公会堂」は、集会・会合等のために設けられた施設であり利用方法も大会・式典・講演会の割合が高い。舞台サイズは比較的狭く、舞台機構も簡素なため舞台芸術には不向きとされている。その後、経済復興と共に全国で公演・演劇からクラシックまで多目的な利用に対応可能な「市民会館・文化会館」が全国で建設された。

- ・大阪市中央公会堂（1918） ・日比谷公会堂（1929）
- ・名古屋市公会堂（1930） ・名古屋市民会館（1972）



名古屋市公会堂

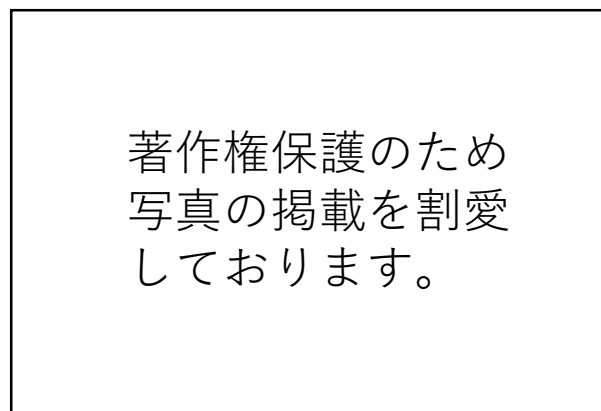


名古屋市民会館

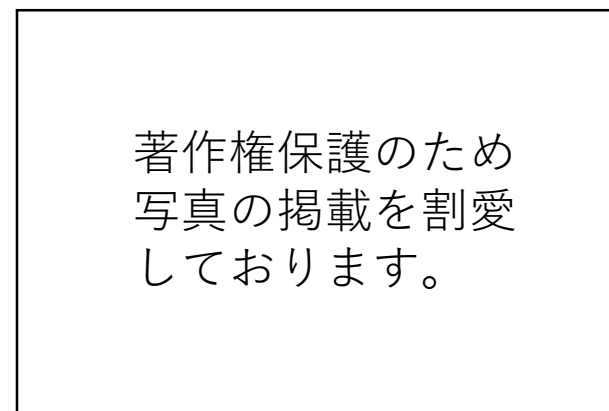
② 多目的ホール、主目的ホール

全てのジャンルを想定した多目的ホールではなくクラシック音楽等、特定ジャンルの利用に比重を置いた“主目的”ホールが整備されるようになった。客席と舞台の高さに一体感を持たせられる「走行式音響反射板」や舞台の高さを可変できる「可動プロセニウム」が導入されたホールも整備されるようになった。

- ・Bunkamuraオーチャードホール（1989）
- ・太田区民ホール・アプリコ（1998）
- ・かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール（1992）



Bunkamuraオーチャードホール



太田区民ホール・アプリコ

3 ホールの類型

(1) ホールの変遷

※施設の概要説明は一般財団法人地域創造の受賞施設の講評を参考にしています

③ 主目的ホール、特定ジャンルを強く意識したホール

主目的ホールよりも、さらに特定ジャンルに特化したホールとして、音響面に最大限配慮した「コンサートホール」や、音響反射板が無く、舞台の奥行きや観客席からの視覚面に配慮するなど、演劇利用を強く意識したホールが整備されるようになった。

ア) 総合芸術文化センターの草分け

水戸芸術館

開館にあたり“市予算の1%ルール”を掲げ、芸術監督制を導入した総合芸術文化センターの先駆けであり、水戸室内管弦楽団の創設、現代美術センターの先進的な企画展など、長年にわたり芸術文化の振興に貢献している。

イ) アーティストとの交流による文化力の向上

彩の国さいたま芸術劇場

クラシック・コンテンポラリーダンス・現代演劇の国際的なプロダクションを精力的に展開。故蜷川幸雄氏が立ち上げた二つの演劇集団、55歳以上のメンバーからなる「さいたまゴールド・シアター」及び若手の俳優による「さいたまネクスト・シアター」への支援に取り組み、公立劇場の新たな道と演劇の可能性を拓いた。

ウ) 関西オペラの拠点として音楽文化の振興と普及に尽力

滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール

西日本に初めて誕生した本格的なオペラ劇場として、開館当初から芸術監督によるプロデュースオペラや子どものためのオペラを制作。日本唯一の専属声楽アンサンブルを有し、地域へのアウトリーチ活動や地元の演奏団体・ホールとの協働事業を行うなど“関西オペラの拠点”として音楽文化の振興と普及に貢献している。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

水戸芸術館コンサートホールATM (1990)

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

彩の国さいたま芸術劇場大ホール (1994)

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

滋賀県立びわ湖ホール (1998)

3 ホールの類型

(2) ホール運営の新しい形

市民らが運営委員会や実行委員会を通じて施設運営にかかわったり、劇場が専門性の高い芸術・文化事業の展開しながら、地域コミュニティとしての役割を果たすなど、地域住民による主体的な文化創造活動や国際交流活動を支援する取組みが行われている。

① 企画力・マネジメント力の強化

武蔵野市民文化会館 “マーケティング力”で鑑賞事業を充実

クラシックの音楽会を中心に年間140本に及ぶ主催公演を実現し、アンケート調査により会員が希望する音楽会を手頃なチケット価格で提供しており、主催公演のチケットの9割以上を会員で売り上げている。独自招聘による海外アーティストや新進演奏家の紹介など、都市近郊の立地を活かし音楽を身近に楽しめる環境づくりに尽力。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

武蔵野市民文化会館（1984）

② 上演団体の拠点施設

すみだトリフォニーホール オーケストラ・フランチャイズの先駆け

墨田区は88年に「音楽都市構想」を策定し“音楽都市づくり”に着手し、同年、新日本フィルと日本初の「音楽フランチャイズ」を成立させ、学校や各施設での出前コンサートなど全国に先駆けたアウトリーチを展開しており、2005年にはオーケストラを育む事業として「ジュニアオーケストラ」を立ち上げ、新日本フィルによるプロの指導が提供されるなど地域に豊かな音楽文化が根づくための大きな一歩となっている。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

すみだトリフォニーホール（1997）

③ 地域劇場間の「横のつながり」の強化（共同制作、ツアー連携）

新潟市民芸術文化会館(りゅーとぴあ)

ジュニアオーケストラ教室の運営をはじめ、充実した鑑賞事業、新潟発を標榜するレジデンシャル・コンテンポラリーダンス・カンパニーの創設など、“創造型芸術文化施設”として新潟発を実現しており全国ネットの拠点施設としての重責を担う。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

3 ホールの類型

(3) ホール運営の新しい形

④ 高度な専門施設としての学芸的な取り組み

世田谷パブリックシアター

高度な専門施設として学芸的取り組みを行いドラマリーディング、ワークショップなどの手法を定着させたほか、コンテンポラリーダンスの新しい情報を発信し、演劇において海外のアーティストとコラボするなど、国際的にも注目されている。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

世田谷パブリックシアター (1997)

⑤ 市民に愛される“地域の劇場”

石川県立音楽堂

「オーケストラ・アンサンブル金沢」のノウハウを活かし、邦楽、ポピュラーなどとのコラボレーション、地域間連携と市民協力によるオペラ、アウトリーチなどを定期的に実施し“地域オーケストラによるホール運営”と地域活性化への新たな道を開拓している。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

石川県立音楽堂 (2001)

⑥ 市民参加－市民参画－市民主体

北上市文化交流センター さくらホール(岩手)

日常生活の中で楽しめる施設を目指しアートNPO法人と連携して運営。市民の文化活動拠点となるとともに地元演奏家による音楽会、子どもの舞台芸術体験事業など育成活動にも力を入れ、まちの文化広場として地域に活力をもたらしている。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

北上市文化交流センターさくらホール (2003)

3 ホールの類型

(2) ホール運営の新しい形

⑦ 芸術監督等の配置

富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ(埼玉)

2018年の公募では全国33人の応募者からダンスと演劇という異なる分野に精通した2人の芸術監督が起用され「キラリふじみダンスカフェスペシャルコラボレーション」といったジャンルや垣根を超えた企画が提案されるなど、アーティストの多い東京近郊の立地を活かし芸術監督制によるホール運営で地域活性化に貢献している。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ (2002)

兵庫県立芸術文化センター

佐渡裕芸術監督のもと創設された専属楽団を柱にプロデュースオペラ公演、定期演奏会、青少年芸術体験事業、県内各地でアウトリーチ事業を精力的に展開している。また、プロデューサー制による劇場経営で年間300本以上の多彩なジャンルの公演を開催し、貸館も含めて年間入場者数50万人を達成しており、阪神・淡路大震災の復興では、心の支援活動を行うなど公共劇団として地域に多大な貢献を行っている。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

兵庫県立芸術文化センター (2005)

⑧ アートマネジメントの専門家を雇用

いわき芸術文化交流館アリオス(福島)

PFI方式を活用した大規模複合文化施設であり、市嘱託職員として専門職員を雇用しクラシックを中心にした鑑賞事業、ダンス・演劇の市民参加事業など実施しているほか学校へのアウトリーチ「おでかけアリオス」、共有スペースでの「あそび工房」など地域に向き合うプラットフォームとして文化施設の新たなあり方を提示している。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

いわき芸術文化交流館アリオス (2008)

4 ホールを核としたまちづくりの事例

4 ホールを核としたまちづくりの事例

(1) 民間施設との複合開発

北九州芸術劇場（リバーウォーク北九州：2003年8月開業）

民間施設との複合開発により高い投資的事業効果等を達成

民間との一体開発により都市魅力を高め、近隣ではマンション開発の誘発や商業施設の新規建設が相次ぎ、整備事業費を上回る高い経済波及効果を達成。また、大・中・小3つの劇場を活用し、バリエーションに富んだ自主事業を展開している。来場者に占めるリピーターの割合が高く継続的な地域の賑わい創出に貢献しており、演劇専用の中劇場を拠点に文化芸術を活用したシティブランドの発信やまちのイメージアップにも貢献。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

高い経済的波及効果を達成

事業費500億円を上回る経済的波及効果約685億円を達成。周辺人口も約1.5倍となり、施設周辺の地価上昇や税収増加にも貢献。

地域の賑わい創出に貢献

大(1269席)・中(700席)・小(216席)
3つ劇場と稽古場等を備え年間約40の事業・300回の自主公演を実施。約30万人の来場者を誇る。※市内人口:約96万人

文化芸術を活用したシティブランドの発信

演劇活動が活発な市の特徴を活かし、自主事業の演劇公演に注力。北九州発のオリジナル作品を生み出し、東京でも公演を行うなど、シティブランドを発信。

4 ホールを核としたまちづくりの事例 (2) ホールや文化芸術を市の顔に据えた戦略

ミュージザ川崎シンフォニーホール (2004年7月開業)

劇場を市の顔に据えた戦略で負のイメージ転換に成功

川崎市の新しいタウンイメージの発信地として川崎駅西口に業務・商業・文化施設などが融合した複合空間の中核施設として、市民が愛着と誇りを持ち、国内外から多くの人を訪れる市のシンボルとなるような世界最高クラスのホールとして整備された。開業後は市民団体も設立され「音楽のまち・かわさき」のまちづくりが進められ、近年では、地元高校の軽音楽部からガールズバンドがメジャーデビューを果たしている。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

フェスタ サマーミュージザKAWASAKI

首都圏のオーケストラが一堂に会する大規模な祭典。クラシックの「新しい聴き方・楽しみ方」を提案する様々な試みが好評でミュージザの代名詞ともなる一大イベント

まちのイメージ転換に成功

世界一流の芸術家が評価する劇場を核に様々な事業を進め「音楽のまち川崎」に対する市民認知度は64%を達成。公害の街という負のイメージ払拭に成功

フランチャイズオーケストラ

開館当初から東京交響楽団が同ホールを拠点に活動している。設計にも関与しており、充実した控室や舞台裏の動線など使い勝手も良く、演奏家の評価も高い

4 ホールを核としたまちづくりの事例

(3) ホールを核に据えた駅前再開発、まちづくり

兵庫県立芸術文化センター (2005年10月開業)

関西における劇場を核に据えた駅前再開発の成功事例

震災復興のシンボルとして優れた劇場の整備とともに市民を巻き込んだソフト先行型の事業展開により6万人超の市民会員を構築し、劇場側で赤字のリスクを負担し多くの自主事業で“チケットを売り切る劇場”として戦略的な営業を展開。

劇場開業後の西宮北口駅周辺は“関西住みたい街1位”を獲得するなど、街のイメージ向上でも大きな成功を収めている。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

チケットを売り切る劇場

館長である県知事のトップダウンによる事業コンセプトの推進と著名指揮者である佐渡裕 芸術監督の文化芸術普及活動により、会員数6万人を確保し、主催公演入場率約90%を実現するなど強力なマーケティング力を持った劇場。

関西住みたいまち 1位を獲得

劇場の開業により西宮北口駅の乗降客数は、月3万人以上増加。地域のポテンシャル向上により近隣に大型商業施設等の建設を誘発。

4 ホールを核としたまちづくりの事例

(4) 市民交流複合施設

札幌市文化芸術劇場hitaru（札幌市民交流プラザ）

都心再開発で文化芸術を牽引する市民交流複合施設を整備

文化芸術の持つ創造性を活かしたまちづくりを戦略的に展開するため高機能ホールや札幌の文化芸術の中心的拠点となるアートセンター、ビジネス向けに特化した都市型図書館など、話題性の高い施設による相乗効果を発揮。合築高層棟には地元北海道テレビが入っており、今後の連携強化により話題性の創出やPR力の強化等の相乗効果も期待されている。2018年10月開業

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

多面舞台を有する高機能ホール

北海道初の多面舞台を備え、オペラ等の本格的な舞台芸術にも対応可能。道外からの誘客を実現。

都市型「課題解決図書館」

無料Wi-fを完備したコワーキングエリアやビジネス向け相談窓口設置等、実用的で話題性が高い施設。

地元放送局との共催事業

写真は開館350日前フェスティバルの様子。テレビ局が有するPR力を活用し、施設の認知度向上を図る。

4 ホールを核としたまちづくりの事例 (5) 首都圏における副都心開発

Hareza池袋（豊島区立芸術文化劇場）

“国際アート・カルチャー都市への挑戦”

～文化を基軸としたハード・ソフト両輪のまちづくり～
豊島区は、逼迫した財政状況による閉塞感を打破するため、2002年から文化によるまちづくりに着手し、2014年には消滅可能性都市に選ばれたことで危機感が高まり、2015年には「豊島区国際アート・カルチャー都市構想」を策定。2019年には東アジア文化都市の国内候補地に決定している。市有地等の資産活用によって、税金を使わず区庁舎を建て替えるなど全国から豊島区の整備手法が注目されている。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

財政に負担をかけない整備手法

利便性の高い庁舎跡地に、76.5年の定期借地権を設定し、企業から一括前払いで新施設の整備財源を確保

豊島区立芸術文化劇場

国際アート・カルチャー都市のシンボルとなる1300席の多目的ホール。女性や高齢者目線に配慮した臨場感あるづくり

“新たな文化のにぎわい拠点”

広場を囲む形で新ホール始めシネコンから公開スペースも含め8つの劇場空間が生み出す年間1000万人の圧倒的賑わい

参考 海外のホール、民間のホール

参考 都市のランドマークとなる海外のホール

(1) 臺中國家歌劇院 (2016年9月開業)

中華民国 台中市西屯区 (延床面積 57685㎡)
客席数 大劇場(2007席)、中劇場(796席)、
小劇場(200席)、屋外半円形劇場 (小劇場
との一体演出が可能)、空中花園など国家級
ホールで2005年の国際設計コンペで選ばれた
伊東豊雄のデザインを元に設計されたが何度
も入札が流れ、2009年12月に着工し2016年
9月に正式開業。

総工費は約150億円。施工難度の高さから
ロイターが選ぶ「世界9大新ランドマーク」
の一つに選ばれ施工過程はディスカバリー
チャンネルによってドキュメンタリー番組
が撮影された。

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

参考 都市のランドマークとなる海外のホール

(2) ウォルト・ディズニー・コンサートホール (2003年10月開業)

ロス・ミュージックセンター内にあるヴィンヤード型のコンサートホール。1987年にウォルトディズニーの妻、リリアン・ディズニーがロサンゼルス
の文化・芸術の向上を目的に建設を決定。ディズニーは1億ドル以上拠出。
設計は巨匠フランク・ゲーリー、音響は永田音響設計の豊田泰久氏が担当。
ホールは硬質木製パネルで構成され優れた音響効果を持ち、座席は2265席。
シルバーの外観は前衛的で強烈なインパクトを持ち洒落た内部デザインは
一見の価値があると評価が高く、様々な内部見学ツアーが実施されている。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

参考 都市のランドマークとなる海外のホール

(3) エルプフィルハーモニー・ハンブルグ (2017年1月開業)

北ドイツのエルベ川沿いに位置しており、旧港湾地区の再開発により
2017年1月に開業した。音響は永田音響設計の豊田氏が担当。

最も高い部分で110m、上層部は1100枚の湾曲したガラス板が使われ
下半分は赤レンガ倉庫を活かしジョイント部は展望広場になっており
施設内にはホテルと分譲マンションが入っている。

座席数は2100席、小ホールは500席。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

フェスティバルホール（2012年10月開業）

旧ホールの老朽化により、開館50周年の2008年に閉館し、大阪市北区の超高層ビル（39階建）「中之島フェスティバルタワー」内に再開館した。座席数は先代と同じく2700席の多目的型ホールとなっており、その上層部には朝日新聞社と貸オフィスが入っている。

著作権保護のため
写真の掲載を割愛
しております。

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。